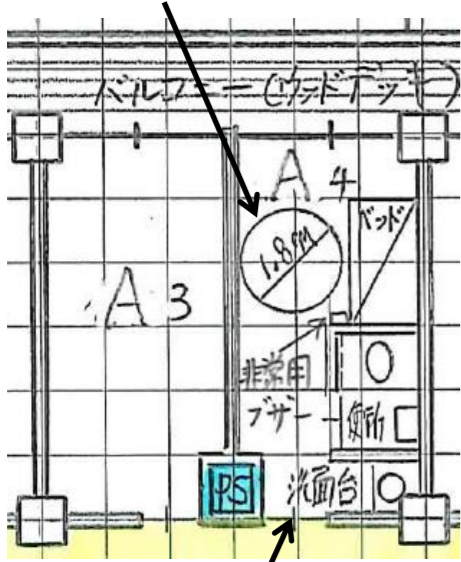


建築計画、構造計画及び設備計画について、次の(1)～(8)の要点等を具体的に記述する。

なお、要求図面では表せない部分についても記述する。また、要求図面では表せない事項についても記述する。

また、(1)、(3)及び(5)については、必ず【イメージ図記入欄】に、平面図、断面図、イラスト等により当該計画に対する考え方等を示したうえで、当該要点等を記述する。

(1) 居住部門の個室の計画において、「入居の住みやすさ」及び「介護のしやすさ」について考慮したこと

<p>【イメージ図記入欄(必ず記入のこと)】</p> <p>車椅子回転用の直径1.8m円を確保</p>  <p>入口は有効幅900mm、居室内通路は有効幅1.5m</p>	<p>入居者の住みやすさ:</p> <ul style="list-style-type: none"> 入口は、車椅子利用者の通りやすいように、有効で900mmの幅を確保した。 居室内で車椅子利用者が回転できるように、1.8mの円が入るスペースを確保した。 居室内の通路は、車椅子利用者が通る場合の利便性に配慮して有効幅1.5mの通路を確保した。 居室内は、明るく開放的な空間とするために、窓面積を大きく計画した。 <p>介護のしやすさ:</p> <ul style="list-style-type: none"> 便所の大きさは、介護のしやすさに配慮して、1.5m×2mで計画した。 便所は、介護者の手助けなしで排便できるように、手すり付便器を計画した。 居住者が急病やけがをした場合、迅速な対応が可能となるようにするため、ベッドサイドに非常用ブザーを設置した。
--	---

※回転円スペースは、1.5mで良い。居室内通路は、1.0mで良い。

(2) 居住部門及び居宅サービス部門のスタッフルーム等介護に必要な諸室の配置について考慮したこと

<p>【イメージ図記入欄(必ず記入のこと)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 居住部門及び居宅サービス部門の玄関は、セキュリティに配慮して、スタッフルームに設けたカウンターを隣接させて計画した。 スタッフの介護に必要な諸室(汚物処理室、洗濯機置場)は、各ユニット及び居宅サービス部門からアクセスしやすい配置での計画とした。
--

(3) 共同生活室及びディールームについて、自然光を取り込みつつ、冷房時の負荷抑制を図るために、建築計画において工夫したこと【Low-Eガラスを使用する工夫を除く。】

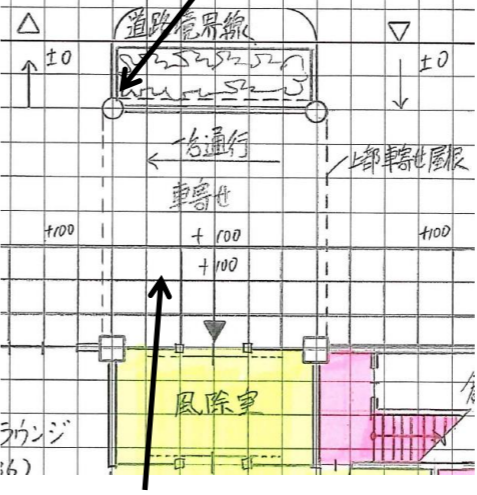
<p>【イメージ図記入欄(必ず記入のこと)】</p> <p>西側は鉛直ルーバー、南側は水平ルーバー</p>  <p>上部庇1.5m、強風対策をした吊り下げプランター</p>	<ul style="list-style-type: none"> 共同生活室及びディールームは、自然光を多く取り込むため、窓開口面積を大きくした。 窓からの自然光による冷房時の負荷を抑制するため、南側には水平ルーバー、西側には鉛直ルーバーを設けた。 水平ルーバーと鉛直ルーバーは、高齢者にとって快適な室内環境となるように、自然光や自然通風を外部条件により微妙に制御ができるように電動により調整可能なものとした。 南側の窓の上部には、夏期の日射抑制による冷房負荷低減のため庇(1.5m)を設けた。 南側バルコニーのある窓面には、強風対策を講じた吊り下げプランターを計画し、自然環境の創出と植物による冷房負荷の抑制を図れる計画とした。
---	--

(4) 建築物の構造計画について、建築物の特性に応じて採用した構造種別・耐震計算ルート(採用したルートを○で囲む。)とそれらを採用するに当たり、耐震性を確保するために考慮したこと

<p>構造種別: 鉄筋コンクリート造</p> <p>耐震計算ルート: ルート1・ルート2・ルート3・その他()</p> <p>考慮したこと: 不特定多数が利用する建物であることから、耐火性、耐久性、耐震性に優れた、更に2階及び3階に浴室があることから防水性にも優れた鉄筋コンクリート造とした。</p> <p>・本建物は、純ラーメン架構としたことから、靱性を確保するため耐震計算ルート3を採用した。</p>
--

※ルート1及びルート2のいずれを採用しても良い。その場合は、強度志向型の構造となることから、耐力壁が必要であり、その点を記載する。

(5) 車寄せの屋根・庇等となる部分の寸法、有効高さ及び車寄せの屋根・庇等の構造計画(各種寸法、部材の材質、支持方法及び耐震性等)について考慮したこと

<p>【イメージ図記入欄(必ず記入のこと)】</p> <p>RC造の柱(500φ)、支持層へ到達GL-2.0の独立基礎</p>  <p>屋根は安定性・経済性等から同一構造体(RC造)で計画</p>	<p>車寄せの屋根・庇等となる部分の寸法(mm)</p> <p>(長辺×短辺×厚さ): 7,000×6,000×200</p> <p>有効高さ(mm): 3,800</p> <p>構造計画について考慮したこと:</p> <ul style="list-style-type: none"> 車寄せの屋根は、建物との同一構造体による安定性、経済性を考慮して、RC造で計画した。 屋根の奥行きは、7mであることから、先端にRC造の柱(500φ)を計画した。 柱の支持方法は、経済性等から独立基礎を採用し、支持層をGL-1.5m以深のN値=30以上の砂礫層まで達成させるため、GL-2.0mを基礎底面とした。 全体をRC造として、支持層を砂礫層までとすることにより耐震性を確保した。
--	--

※屋根部の構造は、①軽量化に考慮した鉄骨造(H鋼等)による片持ち梁方式、②鉄骨造又はRC造によるブレースでの吊り構造を採用しても良い。

(6) 地域条件や経済性を踏まえた、支持層の考え方、採用した基礎構造とその基礎底面のレベルについて考慮したこと

<ul style="list-style-type: none"> 支持層は、GL-1.5m以深がN値=30以上の砂礫層なので、その砂礫層とした。 基礎構造は、不同沈下に対して安定性の高いベタ基礎を採用し、経済性からGL-2.0mを基礎底面とした。 既存建築物撤去範囲の埋戻し部分(+200mm)は、セメント系の地盤改良とし、N値=30以上を確保した。
--

(7) インフルエンザやノロウイルスへの対策について、建築計画や設備計画において考慮したこと

<ul style="list-style-type: none"> 共同生活室等は、インフルエンザ等の感染症対策として、外気処理空調機からの新鮮給気とした。 各個室等の居室は、開口部を設けて自然通風を促進することで感染症対策とした。 浴室等の近傍に汚物処理室を計画し、居住者の汚物を迅速に処理することで、ノロウイルスへの対策とした。
--

※外気処理空調機を採用しないで、全熱交換器等による各室での換気方式でも良い。

(8) 高齢者介護施設としての空調方式について、採用した空調方式とその理由

<p>空調方式: 空冷ヒートポンプパッケージ方式(天井カセット型)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者各個人の温度環境へ対応するため、個別制御がしやすい空冷ヒートポンプパッケージ方式とした。 各居室の天井高さは、3mと比較的低いため、居室を有効利用できる天井カセット型を採用した。 本空調方式は、イニシャルコストとランニングコストの両面において経済的であるという利点がある。

※空冷HPパッケージ方式(天井隠蔽型)でも良いし、空冷HPチラー方式でも良い。